

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

健康栄養学科

名 前 貝原 奈緒子

作成日 2023年9月28日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

私は人間科学部健康栄養学科に所属し、『「こころ」と「からだ」の両面から人間を理解し、芯の強さとしなやかな柔軟性を持つ人材の育成』が責務である。

2年次より専門的に学ぶことになる専門科目の履修に向けて、健康栄養、ヘルスフードサイエンス、看護および理学療法士専攻における化学基礎(必修・選択)から解剖生理学実習(ヘルスフードサイエンス)、栄養代謝実験(ヘルスフードサイエンス・必修)など、「からだ」に対する授業を通じて広い教養を教育する責務がある。

私が所属する健康栄養学科では、「健康への深い理解を持ったプロフェッショナルを育成」することを目標としている。相手の健康をサポートするためには、まずは自分が健康であることが求められる。学生時代とは異なり、社会にでると「知識があること」だけでは通用しない。そのような時、自分自身の持つ芯の強さと、状況に合わせて臨機応変に考え、対応できるしなやかさを併せ持つ人材を4年間かけて、とくに臨地実習担当教員として、育成する一助となることが、私の責務であると考えている。

2. 理念 (教育に対する考え方)

講義、実習のどちらにおいても、目先の知識の習得のみを目的とするのではなく、自身のその先の未来につながることを学生へ伝え、そのための今の授業があるという一本軸を意識した授業運営を理念としている。

管理栄養士の養成課程は人体の構造についての理解から臨床、ライフステージ、栄養教育、給食業務から経営、衛生管理に至るまで非常に多岐にわたる。これらのことをそれぞれの授業で学び、国家試験合格に向けて準備をしていく過程において、どうしても目の前の知識の習得、暗記が目的となってしまう、免許取得後の未来を見失ってしまうことがある。そのようなことにならないように、学生それぞれのゴールについて、学生自身が考え、思い出す機会を短いスパンで設け、学生自身が現在、どの部分を学修しているのかを確認する時間をとることで、学修へのモチベーションを維持できるような授業運営を理念としている。

3. 方法 (教育方法において大切にしていること)

講義授業については、大学教員として10年間授業に携わってきた自身の経験を生かし、(説明) + (演習方式) による一講義完結型スタイルを実施したいと考える。1回の講義の中で、根本的理解につながる知識の説明と、その知識の修得を確認するための演習を実施し、毎回の講義のポイントを学生が体験的に理解できるよう配慮する。知識の説明においては、講義の中で使用する専門用語、特に英語表記は、学生自身での書き取りを促し、グローバルな活躍が期待される学生自身の糧となるよう促す。実習授業については、体系的な理解と教員と学生、また学生同士のコミュニケーションの二点を重視する。具体的には、実験で得た体験や知識をアウトプットする時間を作り、講義授業と実習授業との

つながり、そして教員・学生同士での双方向でのやり取りの中で、実習の目や実験結果が表すこと、を理解するよう促す。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

毎回の授業評価アンケートにおいては、予習、復習ともに授業アンケートでは「講義資料やスライドが見やすい」「毎回小テストがあるので、授業のポイントが分かりやすい」「身の回りのことと関連させてくれることが多く、理解しやすい」などの良い評価を受けた。一方、「早口で聞き取りにくい時がある」といった改善が必要な点についてもコメントがあった。

「早口」であることに対しては「1スライドにかける時間」を設定し、一定の速さで授業を進めていくことができるよう努めていきたい。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

私の教育活動の目標は、化学基礎および解剖生理学、人体の代謝の理解を通して、学生に基礎栄養学のおもしろさを伝えることである。そのためには、学生が化学を理解し、「使える」ようになることが大事だと考えている。この目標を達成するために、短期的にはこれまでの教育改善を継続するとともに、以下に示した教育改善を新たに試みる。

短期目標

- ・ビジュアル教材を講義にとり入れ、学生の基礎学問への興味を保つとともに、苦手意識の克服を試みる。また科目間の関連をより認識させて、基礎から応用への体系的理解を深める。
- ・小テストを実施し、学生の講義による学習達成度をその場で認識させ、講義への実質的参加を促すとともに、学習達成感を積み重ねることで学習意欲を高める。
- ・講義中における演習や中間試験により、成績不振学生の抽出および迅速な対応をおこなって、学習意欲を維持する。

長期目標

私の教育における長期的目標は、まず私が、化学系基礎分野の教育に精通した、化学分野教育、栄養学教育のプロフェッショナルになることである。さらに、できるだけ多くの学生に栄養学を「好き」になっていただき、管理栄養士への道を学んで良かった、人間総合科学大学を選んで良かったと思ってもらうことである。そこで、この目標に向かって次のようなことに取り組む。

- ・栄養学、特に小児における微量栄養素に関する専門家としての研鑽に努め、内外に誇れる成果を出すことによって、教授する学問をより一層深く理解し、教育の奥行きを拓げる。
- ・より学生に寄り添った教育を行い、「こころ」も「からだ」も理解し、スペシャリストとして社会に貢献することができる学生を排出する。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。)